

松くい虫とは

「松くい虫」とは、松に潜って材や樹皮を食うカミキリムシ類、キクイムシ類、ゾウムシ類等の総称で、主なもので10種類ほど知られています。しかし、これらのほとんどが枯れた松にだけ進入し、生きた松を枯らすことはできません。

—— では、松を枯らす真犯人はいったい誰なのでしょう？

実は松を枯らす真犯人は、大きさが1mmにも満たない**マツノザイセンチュウ**(写真-1)という小さな**線虫**です。そして、その線虫を枯れた松から健康な松に運んでいるのが**マツノマダラカミキリ**(写真-2)という**カミキリムシ**です。

つまり、「松くい虫」とは、**マツノザイセンチュウ**とその運び屋である**マツノマダラカミキリ**との**相利共生(助け合い)**によって起こる**松の伝染病**で、正しくは「**マツ材線虫病**」といいます。

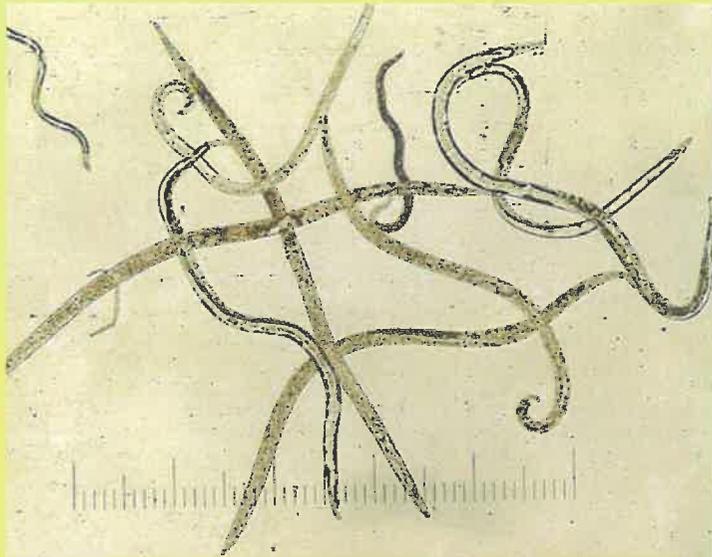


写真-1 マツノザイセンチュウ

学名 : *Bursaphelenchus xylophilus*
(Steiner et Buhrer) Nickle

- ・松を枯らす真犯人。体長は、1mmにも満たない。
- ・もともと日本には生息しておらず、北アメリカからの侵入種。北アメリカでは在来種のため、アメリカ原産の松にはほとんど病原性がない。
日本のアカマツ、クロマツ、リュウキュウマツは、出会ったことのない病原綿虫のため抵抗性が低く、甚大な被害を受けている。



写真-2 マツノマダラカミキリ

学名 : *Monochamus alternatus* HOPE

- ・マツノザイセンチュウは主にカミキリムシの気管の中に入り込み、カミキリムシがかじった傷口から松に侵入し、松を枯らす。
- ・1頭のカミキリムシが、272,000頭ものマツノザイセンチュウを保持していた事例がある。